

甲第 186 号証 の 4

# 飯沼一省

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

**飯沼 一省** (いいぬま かずみ、1892年(明治25年)2月15日 - 1982年(昭和57年)11月14日) は日本の内務官僚、貴族院議員。戦前から戦後にかけて、日本の都市計画行政を牽引した人物の1人として有名である。妻は南弘の娘・権子。

## 目次

- 1 生涯
- 2 著書
- 3 参考文献
- 4 外部リンク

いいぬま かずみ  
**飯沼 一省**

生誕	1892年2月15日 福島県若松市
死没	1982年11月14日(満90歳没)
出身校	東京帝国大学法学部
職業	内務次官 東京都長官 都市計画協会会長 宅地制度審議会会長
配偶者	南権子(南弘長女)

## 生涯

福島県会津若松市生まれ。父は白虎隊士飯沼貞吉の弟で会津松平家家令・飯沼関弥。小石川の旧黒田小学校(現在の文京五中の敷地)、府立四中、一高を経て、東京帝国大学法学部を卒業後、内務省に入省。神政局総務課長、都市計画課長、埼玉県知事、紀元二千六百年式典の事務局長を務めた後、静岡県知事、広島県知事、神奈川県知事、内務省神祇局長、神祇院副総裁を歴任した。

第二次世界大戦後の1946年(昭和21年)に貴族院議員に勅選。内務次官を務めたあと、1947年(昭和22年)には公選制度が始まる直前の東京都長官を務めた。

公職を退いた後は、都市計画協会の理事長や会長を務める傍ら、国土総合開発審議会や宅地制度審議会(会長)、あるいは都市計画審議会などのメンバーとして、都市計画に関連する国の行政に協力した。とくに、1949年制定の広島平和記念都市建設法については法案の提出に尽力し、1968年に全面改正された都市計画法に関連しては、改正の方針を検討する宅地審議会の会長、ならびに改正後に新設された都市計画中央審議会の会長として、制度の定着に努力した。また、1960年からは、国際住宅都市計画連合(IFHP)の名誉副会長を務めた。

## 著書

- 『都市計画の理論と法制』
- 『地方計画論』
- 『都市計画夜話』
- 『受益者負担論』

## 参考文献

- 秦郁彦著『戦前期日本官僚制の制度、組織、人事』東京大学出版会
- 帝国秘密探偵社『大衆人事録 東京篇』(第13版)1939年

## 外部リンク